

# スポーツ大学生の喫煙に対する意識・実態調査 2011

松本 悟 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中藪 伸二

キーワード：スポーツ大学生 喫煙者率 禁煙 環境要因

## 1. 緒言

びわこ成蹊スポーツ大学では、2003年の開学当初より学内全面禁煙である。びわスポ大はスポーツ大学であり、スポーツや健康に関心を持っている学生が多いと考えられる。喫煙者の喫煙開始時期は、20歳前後が最も多いといわれており、本学でも大学生時に喫煙を開始する学生が多いと考えられる。大学生にとって1日の大半を過ごす場であるキャンパスが全面禁煙であることは、喫煙防止に大きな影響を及ぼすだろう。また、親の喫煙が子どもに及ぼす影響、また、喫煙者の初めての喫煙と現在の喫煙理由なども調べる。

## 2. 研究方法

調査Ⅰ：調査対象は、びわスポ大の学生に無記名の自記式で実施した質問紙調査について、2003～2011年分の結果を分析した。2011年の1～4年次生の回答数は1147名。質問紙は、厚生省（喫煙と健康問題に関する実態調査、1999）などを参考に作成した。

調査Ⅱ：2011年11月において、本学学生のうち、喫煙をしている学生を対象にインタビュー調査を実施した。回答数は15名。

「喫煙者」の定義は、先行研究から1ヶ月に1本以上喫煙する者とした。

## 3. 結果と考察

調査Ⅰより、本学における学生喫煙者率は概ね年々減少傾向にある。しかし、20歳になり法律で喫煙が認められるようになると喫煙者

率が増加する傾向がある。親の喫煙が子どもに与える影響は、両親が喫煙者の場合は、他に比べて、喫煙者である学生が若干多い結果となった。学内・学外で喫煙している学生を見つけた時に、どのような行動をとるのかも調査した。学内では、「注意する」と答えた学生が49.2%であった。しかし、学外で「注意する」と答えた学生はわずか16.7%であり、学外では「無視する」とした学生は28.1%であった。

調査Ⅱより、喫煙者である学生が、初めてタバコを吸った時の理由は、「友達にすすめられて」が最も多かった。また、依存性により禁煙できないでいる事実が明らかとなった。

## 4. まとめ

びわスポ大における禁煙ポリシー実施の有効性が一定程度示唆された。今後の課題として、喫煙者・非喫煙者ともにキャンパス外においても禁煙ポリシーを浸透させること、喫煙者を禁煙に向かわせることなどが挙げられる。

## 参考文献

小浜明、他（2005）大学における構内全面禁煙ポリシー評価（中間発表）. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要 第2号：81～91.

中藪伸二、他（2011）スポーツ大学生の喫煙についての意識・実態調査. 学校保健研究 53 (Suppl)：279.

NPO法人京都禁煙推進研究会（2007）新版 さよならタバコ卒煙ハンドブック. 京都新聞出版センター出版.